

# 清華大生 が 見 た

最先端社会、  
中国のリアル

夏目英男

# プロローグ…中国の過去と未来、そしてイマ

2000年7月、私は両親の仕事の都合上、中国・北京に移住しました。当時の中国は改革開放真っ只中で、外国人も少なく、皆さんが想像するような、古き中国でした。

夏場の暑い時期に、胡同と呼ばれる北京に点在する細い路地に入ると、おじさんたちが中国将棋である象棋を上半身裸で指し、横に座っている子どもたちは大紅果(サンザシの実で作られたアイス)や北冰洋(北京の老若男女に愛されている炭酸飲料)などを手に取り、日陰で涼んでいました。

冬場になると、厳しい寒さにかかわらず、厚い氷で覆われている湖面は天然のスケートリンクに変わり、多くの子どもがその上でウィンタースポーツを楽しんでいます。帰り路は冬の風物詩である冰糖葫芦(サンザシの実やフルーツに水飴をかけ、固めたお菓子)を片手に帰宅してきました。

元、明、清三朝の首都である北京は、このような文化と歴史が根強く残っている場所であり、伝統と革新が共存するとても魅力的な都市です。「北京話」と呼ばれる方言を話す北京人は、長らく皇帝のお膝元であった北京で生活してきたため、他地域と比べると恵まれた環境で生活を送ってきました。その影響から、下町文化ならぬ「胡同文化」が漂う北京で生活する彼らはとても礼儀正しく、人情に溢れ、一外国人として生活する私でもすぐに馴染んでいけるような街とそこで暮らす人たちでした。

私が移住してから1年後、中国は立て続けに2008年夏季オリンピック開催権の取得とWTO（世界貿易機関、World Trade Organization）への加入に成功しました。そこから、「中国の奇跡」と呼ばれる経済発展を成し遂げ、北京の街角からも凄まじく変貌する都市景観が見えました。とくに2008年の北京オリンピック前後には、国全体が活気に溢れ、オリンピック効果に伴い加速する中国の経済成長と国際社会への歩み。日本のバブル景気を経験していない者としては、それは貴重な経験でした。

ですが、日本に帰国するとその評価は一変。周りの友人からはなぜ中国に移住するのか、危険な国ではないのか、なぜ中国で引き続き進学するのかという質問が飛び交ってきます。メディアでも中国についての報道は一辺倒でした。大気汚染や水質汚染、食の安全問題、訪日中国人観光客のマナーなどが取り上げられるばかりであまりいい報道を聞きません。

中国と日本は近年、政治・経済レベルでの交流が活発化し、距離が近づきつつあるが、その溝は深い。日本と中国。文化・地理的にも近い国。でもどこか遠い国。

今では街には最先端のテクノロジが並び、もはや財布を必要としない中国国民。深センや中关村を中心に日々生み出される新しい技術やアイデア。毎日とは言わないが、青空が増えてきた北京。そして嫌日かと思えば日本観光を機に日本を好きになった者や、日本文化をこよなく愛する者もいる。だが、逆にどれくらいの日本人が中国を正しく理解し、向き合っているのだろうか。

私は中国生活19年目ですが、自分でもまだ完全に中国を理解しきっていないと思っています。とくに経済や歴史、または文化についてまだまだ勉強することも多く、それについて語る知識も経験も不足しています。それでも本書を通じて皆さんにお伝えしたいのが、**イマの若者から見るリアルな中国**です。

本書の第一章では、今後中国社会の表舞台に立つ「80後」や「90後」を取り上げ、彼らが生活するイマの中国を中心にご紹介します。メディアでは、中国政府や中国经济などを多く取り上げるものの、若者にスポットライトを当てることは少なく、中国の若者について知る機会はあまりなかったでしょう。本章ではそういった中国の若者（チャイナユース）、とくに「80後」や「90後」について、彼らが生活する中国の社会情勢を交えてご紹介したいと思います。

第二章は、中国社会においてデジタル革命が起きる昨今、ライフシーンやビジネスシーンなどが大きく変わっていきました。その中で、チャイナユースを中心に取り巻く、デジタル革命による劇的な変化を最前線でリードするアリババとテンセントの歴史を振り返り、両社が作り上げる中国の社会基盤システムについてご紹介します。

第三章はそんなアリババ系とテンセント系による主要代理戦争や、アプリ大国——中国の現状を事例交えながら、一日の生活でどんなアプリを使用するかなどを解説いたします。

第四章は、中国の急激な発展を支える中国の教育事情、そして「海亀ハイクイ」について、筆者が在学していた清華大学の事例などを参考にご紹介していきたいと思います。中国の教育事情といえば中

国版センター試験「ガオカオ高考」の熾烈な競争などが印象深いと思いますが、高考以外にも中国国内の大学事情、チャイナイノベーションの源泉となる海外帰国組である海亀などについても角度を変えてご紹介いたします。

最終章は、ジャパンユース(日本の若者)とチャイナユース(中国の若者)の価値観やライフスタイルなどを比較しながら、チャイナユースについての理解を深めていきたいと思います。メディアなどでは知ることのないチャイナユースの価値観を解説することにより、今後日本と中国両国の交流が深まる中、彼らをより理解することで、どのように関係を構築していくべきか、そしてどのように協力していくかを読者の皆さんと共に検討していきたいと思えます。

日本に留学経験もある思想家・梁啓超リヤンチーチャオ氏は、1900年に「少年中国説」という散文を書き残しました。そこには「少年智則国智、少年富則国富、少年強則国强、少年独立則国独立、少年自由則国自由、少年進歩則国進歩」という言葉があり、直訳すると「若者が賢ければ国も賢く、若者が裕福であれば国も裕福、若者が強ければ国も強く、若者が自立すれば国も自立し、若者が自由であれば国も自由、若者が進歩すれば国も進歩する」。若者は国の未来の縮図であり、今後の社会を背負う人々。若者は国の未来の縮図であり、今後の社会を背負う人々です。筆者は中国で生活をする中、中国人学生と共に学びを進め、彼らの背中から多くの物事を学んできました。チャイナユースたちは活気があり、常に向上心を保ちながら、社会を変えたいという一心で、ひたむきに頑張っています。その姿から、中国が今に至るまで、そして今後の発展をも垣間見えた気がし

ます。イマの中国から私たち日本人、とくに若者が学ぶ意義はとても大きく、またこれらの事情を正しく伝えることの重要性を感じています。

本書は、今後の中国を背負う若者にスポットライトを当て、彼らについての理解を深めることにより、日本の若者やビジネスパーソンにイマの選択肢や考えを再考するキッカケとなれば幸いです。

2020年1月吉日

夏目英男

目次

プロローグ…中国の過去と未来、そしてイマ

002

第1章

中国を変えるチャイナユース

— 80後、90後とは？

80後、90後とは？

014

改革開放の恩恵と北京オリンピック、中国経済の奇跡

019

日本の文化をこよなく愛する中国の若者

025

日本の漫画やアニメなどサブカルチャーによる影響

英語に次ぐ第二外国語、「日語」

チャイナユースが変える／見る、イマの中国社会とは？

日本と同じゆとり世代の競争率は最高

〴〵起業 という新たな選択肢

次の世代、「00後」とは？

026

030

034

036

043

048

## 第2章

# デジタル革命がもたらす

# 中国社会の変化

アリババとテンセントが変えた中国社会

英語教師だったジャック・マー

052

053



海博翻訳社からインターネットへの出会い

..... 056

中国黄頁からアリババへ

..... 058

最大の壁、eBay

..... 063

天文学に興味があったポニー・マー少年

..... 065

二度の危機を回避し、テンセントを築き上げたポニー・マー

..... 069

アリババとテンセントが作り出す中国社会基盤システム

..... 075

### 第3章

## 世界最先端を走る

## アプリ大国のイマ

アリババ系とテンセント系の主要代理戦争

..... 094

ウィーチャットという最強のSNSサービス

..... 107

138	起床から就寝までアプリ三昧
135	—— 吃喝玩樂、すべてアプリで
125	MeGプラットフォームフォーマーが作り出すアプリ天国
123	—— ユーザーベースで進化し続けるSNSメガプラットフォーム
119	ウィーチャット7・0
	—— ユーザーチャットのOS化
117	ウィーチャット6・0
	—— ユーザーチャットペイの誕生
114	ウィーチャット5・0
	—— SNSツールからSNSプラットフォームへ
111	ウィーチャット4・0
	—— ユーザー倍増計画
110	ウィーチャット3・0
	—— 「真っ白」なSNSサービス
	ウィーチャット2・0からウィーチャット1・0

## 第4章

# 中国教育と海亀たち

「高考」という悪夢	146
チャイナユースが目指す211、985、双一流とは？	152
中国の双雄、「清北」	155
中国トップ高の教育とは？	164
都市部と地方における教育格差を縮める中国のエドテック	169
キャンパスという街、キャンパスライフという学内生活	175
海亀という選択肢	181
海亀が牽引するチャイナイノベーション	185
今だけじゃない海亀たち	192
中国教育の光と影	197

第5章

ジヤパンユースとチャイナユース

恋愛観・結婚観

家庭観

教育観

職業観

一日の生活

エピソード…日中新時代へ向けて

209

214

217

222

226

234